

【質問事項】

質問①：住吉神社を作った人は、浮気さだかつと聞いたのですが、なぜ彼は住吉神社を作ったのですか？

説明：住吉神社を最初に作った人は西暦739年ころ（今から1278年前）物部道足（もののべみちたり）という人です。
浮気定勝という人は1220年に建て直した人です。

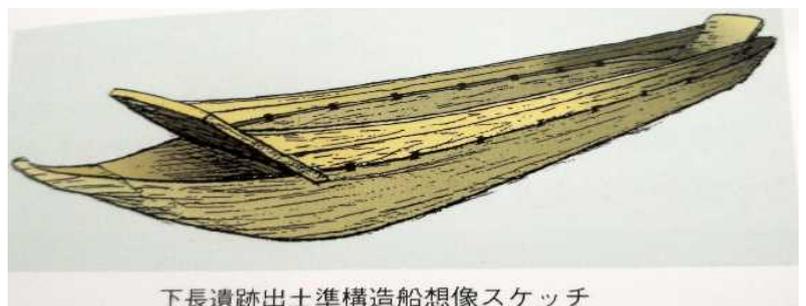
質問②：物部道足はなぜ守山（浮気）に住吉神社を作ったのかまたどうして住吉という名前がついたのか

説明：住吉神社というのは航海の神様で舟が行き来するときの安全を守る神様です。では浮気が舟の行き来とどう関係するかは昔の地図を見るとその答えが分かります。



古代の野洲川は現在の栗東市辻のところでおおきく南流と北流に分かれていました。この時代は南流の方が川幅が大きな川でした。その川が浮気内（南側）にあったサンヤレ山の麓を通り勝部・金森・下物(おろしも)へと流れ、琵琶湖に注いでいました。琵琶湖から木の舟が来たりして行き来していたそうです。それで、舟の安全を願って浮気に住吉神社を建てたということです。

舟が行き来していた証拠が古高の遺跡に当時使っていた舟の破片が出てきてつなぎ合わせると右の想像図のような形になるそうです。



下長遺跡出土準構造船想像スケッチ

質問④住吉神社は、何の材料で作られていますか？



住吉神社 本社

建物の木材は 檜（ひのき）で神明づくりです。
屋根は檜皮（ひわだ）葺きといって檜の皮を重ねて屋根にしています。
その上に銅板で覆っています。

質問⑤ 昔から行われている火祭りについて詳しく教えてください。

☆守山ニュースのDVDを観ながら火祭りの様子を知りましょう。

☆住吉神社の火祭りは約800年昔に土御門天皇（つちみかどてんのう）の御病気が重く回復しないのは、この地に棲む大蛇が災い（わざわい）しているということから、この大蛇を退治したところ病気が治ったといわれています。また、大蛇の頭が浮気（ふけ）の地に、胴体が勝部（かつべ）にしっぽが瀬田（せた）に飛んだといわれています。今では松明を燃やして無病息災を願います。

昼間に松明6基を神社に奉納して、夜に一の火を奪い合い松明に点火します。



質問⑥ 火祭りで使われるたいまつは、どうやって用意されているのですか？

☆柴や竹は金勝の山で切り出してもらって購入しています。



☆稲わらは中主小学校の学習田で脱穀されたあとのわらをいただいています。



☆なたねがらは菜花の野菜としてつま取られたあとのアブラナを残してもらい購入しています。その後、乾燥させて使っています。

☆荒縄（あらなわ）はお店から買っています。



なたねがら



あらなわ

あらなわを
使った様子



質問⑦ たいまつを運んでいる人はいつも男の人ですが、なぜですか？

☆今のところ浮気町内の人で神社に加入している氏子の中で中学校1年生男子から松明組に入るといふ決まりになっているからです。

女の人でもできるのですか？

☆中主の兵主神社の祭りでは女の子も参加しています。今後、決まりが変わり、女の人も参加してもらふ時代が来るかもしれません。ただ、夜の祭りで服装を考える必要がありますね。

質問⑧ 蛇の頭は住吉神社、胴体は勝部神社で 焼かれたと聞きましたが、なぜ別々にしたのですか？

☆土御門天皇（つちみかどてんのう）の御病気が重く回復しないのは、この地に棲む大蛇が災い（わざわい）しているということから、この大蛇を退治したところ病気が治ったといわれています。また、大蛇の頭が浮気（ふけ）の地に、胴体が勝部（かつべ）にしっぽが瀬田（せた）に飛んだといわれています。

一口メモ1

住吉神社の歴史

西暦739年ころ
(今から1278年前)

物部道足(もののべみちたり)という人(栗太の県主)が浮気町含む物部村に住吉神を祀ったのが住吉神社の始まり

1220年に浮気源九郎定勝が本社を再建されたと伝えられています。

出典：滋賀県神社庁

櫛玉饒速日命くしたまにぎはやひのみことが祭神
物部氏の遠祖で物部守屋7世の孫の物部玉岡宿弥道足すくねみちたり(浮気道足)が栗田の県主あがたぬしをしてこの地を占有していたので住吉三神を勧請(神のおいでを願う)したと伝えられている。 守山市誌より

一口メモ2

なぜこの地に住吉神社を作ったのか。

古代の野洲川は現在の栗東市辻のところでおおきく南流と北流に分かれていた。

本流（南流）の川はサンヤレ山の麓から勝部・金森→下物(おろしも)から湖へと流れていた。

現在の境川がそのあとを示している。住吉神は舟の神であるのでこのサンヤレ山の麓まで湖から上ってきたものと思われる。

古高の下長遺跡から弥生時代の舟が出土してのもその証明となる。時代が下がるにつれて野洲川の流れは北に振れ、後に北流が野洲川の本流となった。

住吉という名が付いたのか

①住吉大社

住吉（古くは「すみのえ」と読み、のちに「すみよし」と読むようになった）は、もともとは大阪市住吉区～住之江区あたりを指した地名です。

②住吉大神を祀っている。古来、底筒男命(そこつつのをのみこと)、

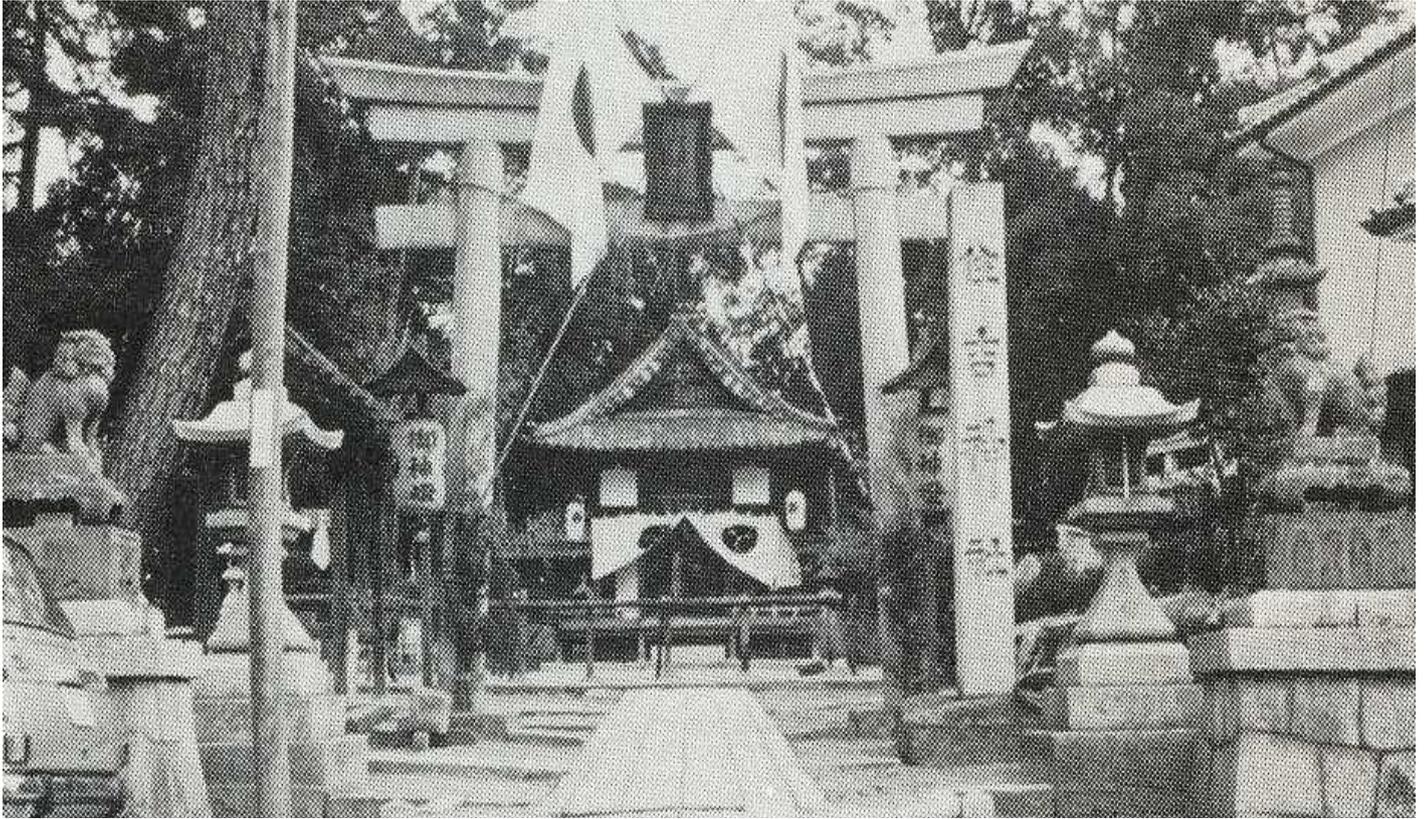
中筒男命(なかつつのをのみこと)、表筒男命(うはつつのをのみこと)の三神を祀る

③航海の守護神として広く信仰されてきた。

④全国におよそ2300社に上ると言います。

⑤各地にある「住吉」という地名は、ほぼすべて、この神々を祀る神社に由来するでしょう。

一口メモ3



鳥居 神明づくり 石材 1間3尺 272.9cm
屋根は瓦葺き

参考長さの単位

1間182cm

1尺30.3cm (1間の6分の1)

1寸3.03cm (1尺の10分の1)

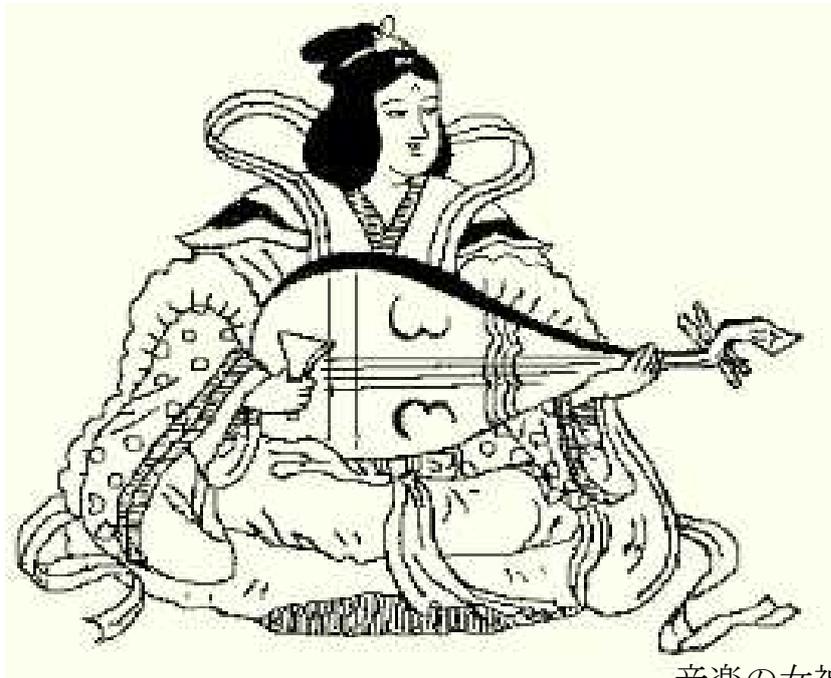
一口メモ4

稲荷神社

- ① 食物の神 五穀の神を司ることから農業の神としての性格を持っている
- ② 総本宮は伏見稲荷大社
- ③ 狐が田畑に出没することと田畑の神とが結びついて農業神の稲荷と狐を深い関係があると見てきた訳がある。
- ④ 初午として油揚げ赤飯野菜果物を神饌物
- ⑤ 稲荷は稲のり つまり稲が実る
稲登り (いなぼり) と略されさらにイナノリ→イナリという説

一口メモ5

弁才天 弁財天



音楽の女神 河川の神=水の神

蓄財の神

一口メモ6

狛犬

邪気を祓（はら）う意味

神様のお使い

阿吽(あうん)の呼吸の由来と意味とは？

初めが「阿」、最後が「吽」ということで、阿吽とは「初めから終わりまで」を意味しているといわれています。)



一口メモ

鳥居



神様が住むところへの入り口が鳥居です

鳥居は神社の内と外を分ける境に立てられ、鳥居の内は神様がお鎮まりになる御神域として尊ばれます。

鳥居の起源については、天照大御神（あまてらすおおみかみ）が天の岩屋にお隠れになった際に、八百万の神々が鶏を鳴せましたが、このとき鶏が止まった木を鳥居の起源であるとする説や、外国からの渡來說などがあります。上の部分を笠木下の木材は島木と呼んでいます。

参拝の作法

- ①鳥居のところで一旦止まって1礼
- ②手水舎で手を洗い口をゆすぎ
- ③鈴を鳴らす
- ④2拝2拍手1拝（2礼2拍手1礼）
- ⑤鳥居で止まって一礼